



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第39号)

2006年4月27日発行

「スペシャルな子供たち」

オハイオ州コロンバス市は春たけなわ。街路樹は明るい緑に映えて白いサクラとよばれるハナミズキが満開です。教会の庭にある一本だけのしだれ桜も薄いピンクの花模様で、しなやかな姿を誇っています。コロンバス日本人キリスト教会では、イエスキリストの復活を記念するイースター特別礼拝がおこなわれました。教会の賛美チーム・メンバー木藤和子さんにインタビューして障害児学級での働きを紹介していただきました。

私は神戸で生まれ、1991年に渡米し、大学で障害児教育を専攻しました。アメリカで障害児教育は Special Education とよばれています。現在は地元の小学校の中にある障害児保育の教師をしています。大学で学んだ障害児教育は行動分析学が主流になっていましたが、現場はけっして学問的に割り切れるものではなく、教えるよりも子供たちから学ばされることの方が多くあります。

担任教師として私が受け持っている子供たちは、自閉症を持つ4歳児と5歳児男女あわせて5人です。朝9時の朝食から始まって、遊び、勉強、おやつ、グループ学習で午前中が過ぎます。お昼休みに続く30分のお昼寝の時間は、疲れていても眠れない子が多く、マッサージをしたり絵本を読んだりしながら落ち着かせて午後には備えます。また障害児のための体育、言語、作業・理学療法士と共同のアクティビティーも週3回あります。

目が大きくやんちゃなループ君は、なかなかの頑固者です。自分の思うようにならないと癇癪を起こします。ディズニー映画のストーリーを丸暗記するという特技も持っています。そんなループ君ですが、最近は随分我慢できるようになり、叩いたり蹴ったりではなく、言葉を使って自分の思いを伝えられるようになってきました。

とても頭のきれいなジェイ君は、アスペルガー症候群で数字やアルファベットが大好きですが、人とのコミュニケーションが苦手です。必要な時しか話しかけてきませんでしたが、やっと言葉数も増えて自分の気持ちを上手に伝えられるようになってきました。おやつ時間にアップル・カッターをつかってリンゴの芯を抜く時、彼は「Are you OK, Apple?(リンゴさん大丈夫?)」と聞かやさいい心の持ち主なのです。ジェイ君には一語単位で会話をはじめました。一語でも返してくれたらそれをいっしょによろこぶ。そうしながらコミュニケーションの楽しみを体験させていきます。自閉症やアスペルガー症候群は遺伝的なものと言われていますが、はっきりとした原因はまだわかっていません。心理的精神障害ではなく、脳内の情報処理の仕方に障害があるため人とコミュニケーションをとるのが苦手な子どもが多いのです。

奇声を発しながら教室中を走りまわるジョシュ君は4歳。最初は言葉が一切無かったので、手話をまじえて「More(もっと)」「Please(おねがい)」「Eat(食べる)」など簡単なことばを使う所から始めました。そのうち私たちの言うことばをまねするようになり、ひと言がふた言になり、歌も口ずさむようになりました。教室では自分の持っているものを取り上げられては大変と逃げ回っていました。彼が握りしめている物よりもっと楽しい物を用意し、手をカラにして交換する、人と触れ合うのもそう悪くないのだと教えることにしました。その時、私自分も神様に対して同じことをしているのではと、ふと感じたのです。これだけとは握りしめているために神様が与えようとしておられるものを手にできないでいるとしたら……。

本好きのマイク君は、ページをめくりながらイントネーションをまねて自分の言葉で絵本を読みます。自閉症児には珍しく人と話すのが大好きなのですが、音声を発するだけなので他人には通じません。そこでスローダウンさせてひとつひとつの言葉を組立てていくことを練習しています。そのうち私にも彼の話す「音のかたまり」がだんだんわかるようになってきて、それを言葉に置き換えてあげるととてもよこんでくれます。

クラスで一番パワフルなのがメリーちゃん。癇癪を起こすと人をなぐったり噛んだりする女の子です。癇癪を起こしたのでは自分の欲しいものは手に入らない、何かを伝えたい時はひと言でもいいから言葉を使う、と

いう事を分かって貰うのに苦労しました。頑張って待てた時にはうんと褒めてあげます。待つ間は怒ったり、噛んだりしてはダメだということが彼女なりにわかってきたようです。次のステップは待ってももらえない時もあるんだよと教える事ですが、こればかりは大人でもむずかしいことです。

障碍のある子供たちですから、ひっかかれたり、噛まれたりすることは始終です。もうやめてしまおうと思ったことは何度もあります。子供も私も人格をもった人間ですから、お互いのぶつかり合いで傷ついたり、がっかりしたりすることは勿論あります。ですが毎日の触れ合いの中で、こんなことが出来た、これが出るようになったと喜びあい、また一緒にお腹をかかえて笑いあえる瞬間、最高の仕事に恵まれたと実感します。ひとりひとり、神様が巡りあわせて下さったスペシャルな子供たちです。彼らが楽しいと思えるもの、小さな幸せを、少しずつ増やしていくお手伝いできればと思います。「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。」の聖書の言葉を忘れずに、これからも障碍児教育に携わっていきたくて願っています。

HCJB日本語放送担当

在 主 尾 崎 一 夫 久 子

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmoz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2006 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
